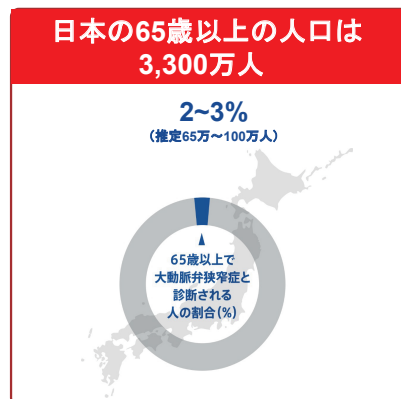


TAVI（経カテーテル大動脈弁植え込み術） 実施施設に認定されました。

福岡徳洲会病院は、平成 30 年 3 月 6 日に『経カテーテル大動脈弁置換術』の実施施設として認証され、福岡県内では 5 施設目の施設として TAVI を実施する事が出来るようになりました。重症大動脈弁狭窄症に対して、手術困難とされていた患者さんの治療も可能となりました。

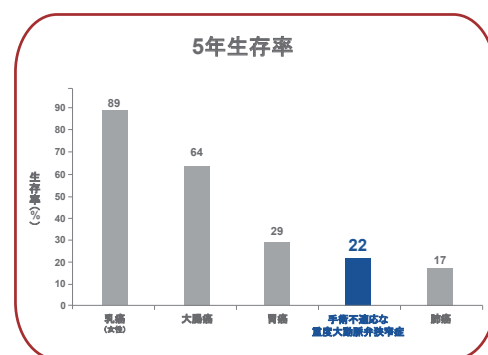
大動脈弁狭窄症とは

日本における 65 歳以上の大動脈弁狭窄症の罹患率は 2～3%、潜在患者数は約 100 万人と推定されています。主な原因として、動脈硬化の進行が考えられ、高齢化が急速に進む日本において今後ますます患者数が増加することが予想され、その治療は緊々に取り組むべき重要な課題と考えられます。



経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）とは

重度の大動脈狭窄症に対する新しい治療法で基本的には開胸することなく、心臓も止めることなく足の付け根の動脈や肋骨の間からカテーテルを用いて人工弁を患者さんの心臓に留置する治療法です。低侵襲で人工心肺も使用しなくて済むことから、患者さんの身体への負担が少なく、高齢で体力が低下している患者さんや他の疾患のリスクがあるため、手術困難とされた患者さんが対象となる治療法です。



TAVI の適応

手術不適応な患者さんに対して、TAVI が一つの選択肢になりますが、例えば下記に該当する症例です。

- ご高齢の方（概ね 80 歳以上が目安）
- 大動脈の高度な石灰化のある方
- 胸郭に対する外科手術の既往のある方
- 冠動脈バイパス手術の既往がある方
- 頸動脈狭窄や慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肝硬変などの合併症のある方